

平成23年度附属図書館職員研修 ～震災等の災害時救命救急について～

8月3日、弘前地区消防事務組合東消防署柘形分署より2名の方を講師に迎え、附属図書館に於いて「震災等の災害時救命救急について」をテーマに職員研修を行いました。

研修には27名の学術情報課職員が参加しました。はじめに講師から現場における実体験や落下物の下敷きになった被災者への具体的な対処方法などを交えた応急手当の基礎知識を学び、その後2班に分かれ心肺蘇生法（人工呼吸・胸骨圧迫）、AEDの使用方法を人型模型を使用しながら学びました。

心臓停止になってから5分以上血流が止まると救命率が大きく下がること、救急車が到着するまでの救命救急措置が非常に大切で、心肺蘇生も、しないのと、力が弱くてもしていた状態とでは助かった後の回復力が全く違うことなど、心肺蘇生法の原理がわかり、また、AED実習後半では数名でチームを組み、119番とAEDの依頼→心肺蘇生（人工呼吸2回→胸骨圧迫30回サイクルを繰り返す）→AED操作→到着した救急隊員に引き継ぐまでを連続させた実習を行いました。講師の先生からも「人命救助には、知識・技術・体力・勇気が必要ですが、最も重要なのは行動を起こすことです。」とお話があり、胸骨圧迫など体力が必要な心肺蘇生では各自積極的に交替を行うなど一人一人の意識強化が図られた有意義な研修となりました。



本館閲覧室での研修の様子



心肺蘇生・AED操作実習の様子

(学術情報課長 工藤弘文)

ラーニングスペース・スクエア オープン

8月から図書館本館3階に整備を進めてきたラーニングスペース・スクエアが9月末に完成し、10月19日から全面オープンしました。また、オープン初日には、遠藤学長をはじめ、各副学長・理事をお招きして完成披露を行いました。

ラーニングスペース・スクエアは全てグループでの利用が可能な施設となっています。従来の図書館で

は個々の学生の勉強のための静かな空間を確保することが第一でしたが、ラーニングスペース・スクエアはリラックスした雰囲気での議論できることをコンセプトに、図書館内資料や図書館HP等で提供している電子的資料も利用できるような各種情報機器も利用できる環境を整備しました。ラーニングスペース・スクエア以外のフロアは静かな空間を維持することとし、目的によって使い分けられるようになっています。

オープンした施設は、ラーニングスペース（3室）とラーニングスクエアで構成されています。ラーニングスペースでは情報資源を活用した学習に対応する機器も用意しています。また、無線LANの環境が整っており、ご自分でお持ちのPCで学習することも可能です。

ラーニングスペース (Learning Space : グループ学習用3室)

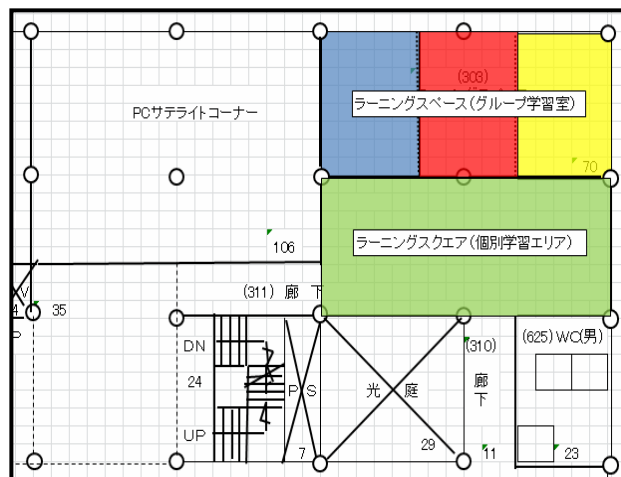
少人数のグループ学習やゼミ内の会議、サークルの打ち合わせなど、いろいろな目的での利用が可能です。また、様々な情報資源から得られる情報を用いて議論や共同作業などを進めていく学習スタイルを可能にする場です。机やイスは移動可能なものを用意し、増減が可能な利用形態としています。また、各室を仕切っているパーティションを開放することで多人数での利用も可能です。情報機器は液晶プロジェクター1台、電子ホワイトボード2台、館内貸出用PC5台の利用ができます。



遠藤学長の視察（平成23年10月19日）

ラーニングスクエア (Learning Square : 個別学習エリア)

PCを利用しながら、資料も余裕で広げることのできるテーブルを設置しています。紙の資料と電子資料の両方を使いながらレポートをまとめたり、グループで議論しながらそれぞれの作業をしたりと、いろいろな利用の仕方ができるスペースです。



本館3階整備図面

利用予約は図書館HPのMy Libraryから申請できます。また、電話（内線3162）及び直接来館による予約もできます。利用手続き等について不明な点等がありましたら、職員へお気軽にお尋ねください。新たな設備で快適に学習、研究が進むよう願っています。

（学術情報課長 工藤弘文）